

「天一国特別世界巡回師」8人が全国巡回をスタート

真の父母様の代身として日本の教会員を慰労・激励



① 天宙聖和5周年までの「120日特別路程」(5月10日～9月6日)が最後の40日間の歩みに突入する中、真のお母様の強い願いを受け、「天一国特別世界巡回師」が首都圏を皮切りに21日間(7月22日～8月11日)にわたる日本巡回をスタートさせ、各地で食口たちを復興させています。

今回来日した世界巡回師は、家庭連合の草創期から真の父母様に侍ってきた史光基先生、趙萬雄先生、許耀先生、宋榮浚先生、金明大先生、文平来先生、柳鐘寛先生、金興泰先生の8人。一行は7月20日に東京に到着するや否や、千葉・浦安の一心特別教育院に移動し、2日間にわたって「天一国特別世界巡回師来日研修会」に参加しました。研修会には全国の地区長、本部局長、統一運動諸団体のリーダーも加わりました。

20日午後に行われた開会式では、徳野英治会長が歓迎の辞を述べ、真のお母様のみ言を引用しながら、特別世界巡回師の使命は「日本の食口の復興と教育です」と強調。「皆様は天から降りてきた将軍です」と語り、世界巡回師に対する大きな期待感を表明しました。

一方、世界巡回師を代表して団長の史光基先生が



挨拶し、「お母様がなぜ私たちを世界巡回師に任命し日本に送られたのか考えると、私たちが日本の食口たちに何かを教えるのではなく、日本が頑張っていることから学び、世界の復帰の戦略に活かしていくためではないかと感じています。お母様が送ってくださった深い意味を常に尋ね求めながら、お母様の願いと摂理にお応えするため、謙虚な心で感謝して日本の教会を巡回します」と決意を語りました。

その後、同日夕方から夜遅くまで本部各局の報告が行われ、翌21日朝からは統一運動の諸団体の現状が報告されました。真のお父様が聖和され、真のお母様が「中断のない前進」を宣言してVISION2020を発表されて以降、日本家庭連合が実体的なデータに基づいた具体的な戦略を遂行し、実質的な成長を



してきたことを紹介しました。

日本が非常に戦略的かつ組織的に摂理を進めていることを目の当たりにした世界巡回師からは、「日本家庭連合はVISION2020を勝利できると確信しました。緻密かつ高い基準で活動している日本の食口に私たちが与えることができるのは、骨髄の中からにじみ出る真の父母様の心情だけです」といった声も聞かれました。

閉会式では、宋龍天・全国祝福家庭総連合総会長が、真のお母様が米国で下されたみ言の全文を朗読して共有した後、「日本は現在、天宙聖和5周年までの『120日特別路程』を通じ、全国の食口が一つとなって前進しています。そうした重要な時期に、お母様が8人の世界巡回師を送って下されたのは、天の大



きな恩賜に違いありません」と感謝の言葉を述べました。

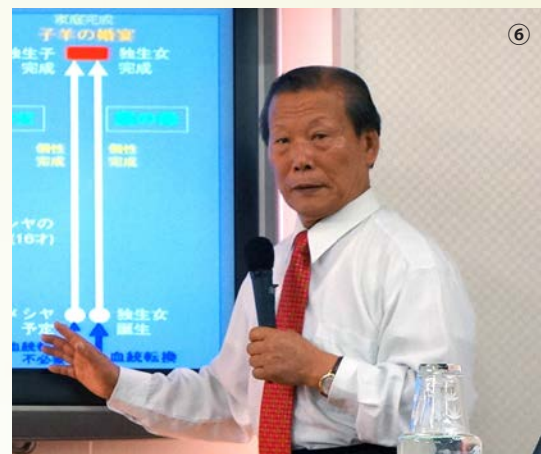
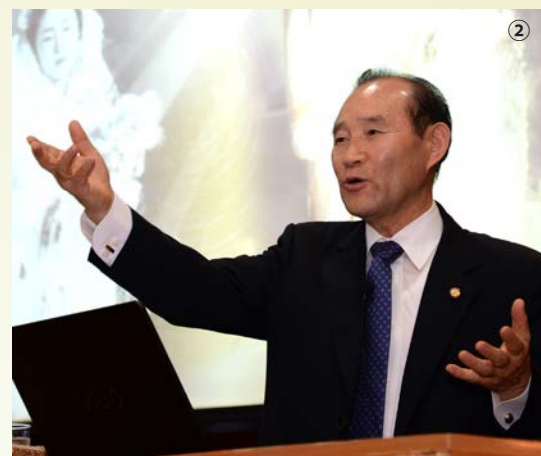
その上で、宋総会長は「真の父母様の代身として日本を訪ねて下さった世界巡回師の皆様、私たちが孝情の心情を抱いて待るとき、真の父母様の祝福と恩恵を受けることになるでしょう」と強調。最後に「VISION2020勝利のための日本の家庭連合の絶対基準である『真の父母様の中で、私たちは一つだ』という心情を抱き、世界巡回師の皆様と全国の牧会者とすべての食口が一つとなり、この期間、天の祝福を日本の家庭連合が受ける期間になることを切に願います」と語り、全体が立ち上がって「真の父母様の中で、私たちは一つだ」と叫んで閉会式を終えました。(3面に続く)

- ① 研修会の参加者全員で記念撮影
- ② 研修会の様子
- ③ 西神奈川教区小田原家庭教会で行われた特別集會(7月26日)
- ④ 北東京教区竹ノ塚家庭教会で行われた特別集會(7月24日)

世界巡回師の一行は、研修を終えると直ちに巡回をスタート。21日夕から24日午前にかけて、第5地区（東京）の各教区を手分けして回り、教区・教会別に行われた集会で食口たちにメッセージを語り、復興させました。

世界巡回師の集会に参加した第5地区の食口からは、「世界巡回師の先生から、『天の摂理の前に最も苦労してきた日本の食口に本当に感謝し、尊敬しています』という慰労の言葉を頂き、感動しました」「世界巡回師の先生のメッセージを聴いていると、真の父母様にお会いしているような感覚を覚え、懐かしい真の父母様の香りを感じることができました」といった感想が聞かれました。

世界巡回師の一行は、7月24日午後からは第4地区（南関東）に移動し、26日まで神奈川、千葉、山梨の各教区を巡回。27日から8月7日までの期間は、8つの地区の中からくじ引きで各世界巡回師が担当する地区を一つ選び、8人が全国に散らばって巡回を継続。21日間の最後の3日間（8月8日～10日）は、8人全員が最後の任地である第8地区（近畿）に集結し、同地区の教区・教会を手分けして巡回する予定です。



①史光基先生 ②趙萬雄先生 ③許燦先生 ④宋榮浚先生
⑤金明大先生 ⑥文平来先生 ⑦柳鐘寛先生 ⑧金興泰先生

「天一国特別世界巡回師特別集会」参加者の感想

懐かしいお父様の香りを感じた

真のお母様が8人の天一国特別世界巡回師を送って下さり、文平来先生、許燦先生のお二人を西東京教区にお迎えしました。

巡回師の方々は、お母様からの突然の指示をすべて受け止められて、準備もままならず、とにかく父母様の前に信仰を立てて来られたと伺いました。移動されながら天の願いをいかに真の父母様のご心情のままに伝えていくかを試行錯誤され、祈られながら特別な心情を整えてお越し頂きました。

先生方からみ言を受ける中に、懐かしいお父様の香りを感じ、暖かい感覚に包まれました。父母様と歩まれた路程を伺いながら、母の国・日本のこれまでの歩みに対して慰労して下さり、労いの言葉を頂くと、自然に涙があふれました。忘れていた暖かい涙があふれ、お父様に生前お会いした時の感動や御父母様から愛されて力を頂き、決意した時の感覚などが蘇ってきました。（西東京教区 婦人スタッフ）

天一国実現のためのプロジェクトについて理解

現在、真のお母様がなされている様々なプロジェクト

一つひとつが、天一国実現のための環境創造であることを今回の許燦巡回師のみ言を通して整理されました。今までは一つひとつの大会やプロジェクトを個別的に捉えていた感がありましたが、今後何千年と子孫に天一国の必要なモデルを具体的な環境として展開しているのだとの思いにつながりました。

真のお母様が「一代で全てを成していきたい」と語られています、とりわけ毎月のように行われる大きな大会や天苑プロジェクトの驚くべき進展は、そのお母様の切実な心情の表れなのだと感じ取ることができました。（西東京教区 公職者）

日本食口に対する慰労と激励に感謝

足立家庭教会に史光基先生をお迎えし、最初に日本食口の苦労と精誠に対し涙ながらに頭を下げて挨拶をされるお姿に、深い愛とお母様の心情を感じました。

礼拝の内容は、伝道の意義と価値、また何よりも御父母様の価値を汗びっしょりになりながら語られるお姿は、真のお父様のお姿と重なるようで、礼拝全体が心霊と真理に満ち溢れたものとなりました。

礼拝後は食口一人ひとりに握手をしてくださり、激励

と慰労の場となりました。何よりも、真のお母様が日本食口の激励と復興のために天一国特別世界巡回師をお送りくださったことに心から感謝いたします。（北東京教区 牧会者）

「独り娘」としてのお母様の壮絶な路程を証言に涙

文平来先生は、真の父母様のみ言に出会ってイエス様の深い心情を知って泣かれたことなど、ご自身のこれまでの路程を語ってくださいました。

今日までみ旨一直線で歩いて来られた先生が、「独り子・独り娘」について語られる時は、父母様を証すると同時に、摂理史的背景を解説しながら、私たちが理解しやすいように懇切に語られました。特に「独り娘」としてのお母様について語られた時は、お母様の壮絶な闘いに涙を禁じ得ませんでした。真の父母様が越えてこられた歴史の一つひとつについて実感をこめて語られ、本当に心が吸い込まれていくようでした。（西東京教区 牧会者夫人）

真のお母様をお支えしていくことを決意

趙萬雄先生が礼拝堂に入って来られた瞬間から、真の

父母様の香りを感じさせて頂きました。穏やかな雰囲気、心が安らかになり、癒されました。

み言を通して、今一度、真のお父様と一つになっておられるお母様をもっともっと慕って、さらにお母様をお支えしてたくさんの喜びをお返ししていける者になっていきたいと思いました。（東神奈川教区 婦人スタッフ）

真の父母様の偉大さを再認識

柳鐘寛巡回師の背後に真の父母様の存在を強く感じました。巡回師を通して、真のお母様が食口一人ひとりを愛して下さっていることを感じ、とても感謝でした。

講話の内容においては、改めて真の父母様の位相を確認することができ、真の父母様の偉大さ、価値を再確認できました。今、真の父母様と同じ時代圏に生きていることがどれ程恵みであるかと感動しました。

また、改めて、真のお母様が成されている摂理の内容を詳しく知り、その素晴らしい業績を確認でき、天一国を実体的に実現しようとされているお母様の偉大さやご苦労を感じました。また、お父様の遺業を見事に引き継がれている方であると改めて実感しました。参加した食口達も大変復興していました。（北長野教区 牧会者）

家庭連合の理想を掲げ、実体的成長を成し遂げよう

北海道・帯広で「天運相続 孝情 還元祈願聖火式」



真の父母様の恩賜と計らいの中で7月23日、北海道帯広市の郊外、霊峰・剣山の中腹に位置する「聖火の郷」で、「天運相続 孝情 還元祈願聖火式」が盛大に行われ、地元の教会員を中心に全国からおよそ3300人が参加しました。

当日は「雨」との予報もありましたが、雨が降ることなく会場は朝から霧と雲に包まれ、幻想的で神秘的な雰囲気漂い、天によって守られた環境の下で式典が行われました。

式典は、韓国の民族音楽「サムルノリ」の太鼓の音で開幕。アイヌ民族の伝統的な歌と踊りに続いて、幼児から青年までのメンバーが一つになって、真のお母様のお好きな「愛を探して、人生を探して」などの歌に合わせて「天父報恩鼓」の躍動的な演舞を行い、会場を盛り上げました。

続く第2部では、天宙清平修鍊苑のスタッフのリードで約50分にわたって讃美役事が行われました。

安田公保・第1地区長の司会で行われた本式典は、聖歌隊の讃美と共に始まりました。

徳野英治会長は主催者挨拶で、「真のお母様が世界で唯一、聖火式を許諾して下さったのが、ここ聖火の郷です。きょうの式典は、清平と本部と現場の第1地区が真の父母様を中心に一つとなって開催される初めての聖火式なのです」と語りました。

また宋龍天総会長は歓迎の辞で、「私たち自らが家庭

連合の理想を完成する完成期の道を歩いて完成実体に近づくようになれば、私たちの肉身を通してしか成長することのできない絶対善霊と共に成長して完成実体に近づくのであり、祈願書の内容が成就され、天の父母様の祝福を受けるに足る“器”となります。そして、まだ救われていない宗教圏の霊人たちと善なる霊人たち、究極的には悪霊たちも皆、救われることができる道が開かれるのです」と強調。その上で、「家庭連合の時代精神は、実体的な成長です。すべての祝福家庭は条件的ではなく実体的な成長を成し遂げなければなりません。家庭連合は実体的な成長を通して、各家庭で天の父母様と真の父母様に侍る家庭教会を完成し、神氏族メシヤの道を歩まなければならないのです」と訴えました。

続いて、天宙清平修鍊苑の李命官副苑長が祈願書と「聖火式」の意義と恩恵について語りました。

その中で、李副苑長は「きょう挙行される『聖火式』は、悪運を取り除き、天運を相続する聖なる儀式です。そして先祖の罪と悪の因縁を清算する最高の先祖供養の儀式であり、個人・家庭の健康と幸福を祈願し、すべての願いの成就を祈願する儀式です」と説明。その上で、「天運とは神様の運勢であり、最高の運勢です。きょう参加された皆様は天運を受け、霊的役事の驚くべき恩恵の奇跡を体験することができるのです」と力強く語りました。

引き続き、告天感謝文の朗読の後、全地区の代表者11人が祈願書を聖火壇に奉納し、12人の教区長が会場



①聖火式の会場 ②聖歌隊による讃美 ③祈願書を奉納する各地区代表 ④聖火を運ぶ教区長たち
⑤李命官副苑長 ⑥宋龍天総会長 ⑦徳野英治会長 ⑧聖火壇に点火 ⑨燃え盛る聖火
⑩所願成就祈禱を行う参加者



中央に設置された3つの聖火壇に聖火を点火。全国から集められた61万枚に上る祈願書が天に奉獻されました。

参加者は、燃え盛る聖火を見ながら、霊界の先祖の協力を受けて神氏族メシヤの使命を勝利する決意を新たにしながら、このような貴重な恩賜を与えて下さった天の父母様と真の父母様に深い感謝を捧げました。

聖火式は、全体で所願成就祈禱と億万歳三唱を行った後、閉幕しました。

【参加者の声】

■帯広での聖火式に毎回参加させていただいていますが、今回は感じる世界の次元が全く違いました。父の国・韓国の文化と母の国・日本の文化、祝福二世たちの踊りとアトラクションが進むにつれ、韓日が一体となり清平と一つになったこの場は、真の父母様が臨在され、主宰しておられることを確信しました。役事が終わる頃には、今回は「とてつもなく」大きな恩恵のある聖火式であり、感謝の思いで一杯になりました。この恩恵に応えるにはどうしたいのかと考えるようになりました。日本は母の国としての責任を果たすことで、個人は神氏族メシヤ勝利へ邁進することで応えるのだと決意しました。(札幌稲西家庭教会、婦人)

■5才の孫と参加しました。式典が始まる前、孫は「空をみて!たくさんの方がいるよ!」と叫び、役事の時にしてもらった背中への接手は、とても5才とは思えませんでした。(前日までの猛暑とは打って変わり)役事の時間に涼しい風が吹くなど、真の父母様の直接主管で行われる聖火式の恩恵を実感しました。(旭川家庭教会、婦人)

■天の父母様と真の父母様の愛に包まれた、素晴らしい聖火式に感動し、感謝しています。子供達も全員祈願書を書いて参加し、たくさんの恩恵を受けました。まるで清平が帯広に移ってきたかのような幻想的な雰囲気の中、暑くも寒くもない、霧雨が心地よく、舞台や空に無数の光が輝いて、その中でもとても強い光に真のお父様を感じました。また主人や善霊の皆さんが喜んで来てくださり、涙があふれました。霊界と地上が一つとなって、地上・天上天国を創建する新たな決意の場となったことを感謝します。この恩恵を多くの人に伝え天に喜びをおかえしたいです。(札幌南家庭教会、婦人)

九州北部豪雨の被災地でボランティア

地元を中心に支援の輪が広がる



① 柿畑に流れ込んだ土砂を撤去するUPeace 山口のメンバー（福岡県朝倉市）
② 作業を終えて泥だらけになったUPeace 山口のメンバー
③ 第11地区が送った支援物資（久留米家庭教会）
④ 路肩の土砂を取り除く久留米家庭教会の青年たち



7月5日から6日にかけて九州北部を襲った記録的な豪雨により、福岡、大分両県を中心に土砂災害や河川の氾濫などが起こり、甚大な被害が発生したのを受け、第11地区（九州）が直ちに被災地に向けて支援物資を送るなど、地元を中心に支援の輪が広がっています。

南福岡教区久留米家庭教会は、被害が発生した直後の7日には対策本部を設置。第1陣として、被害地域に住む教会員の家庭に水や食料などの支援物資を届けると同時に、各家庭の被害状況を調査しました。また8日には青年ボランティア隊13人を派遣。福岡県朝倉市内の被害家庭の自宅や周辺の道路などで泥の撤去作業を行いました。その後も、地元の教会員が随時、支援活動を続けています。

15日～16日、山口教区成和青年部の有志14人で構成された「UPeace 山口」は、福岡県朝倉市の被災地を訪れ、一般家屋や果樹園で泥のかき出し作業などを行いました。想像を絶する現地の状況と炎天下での過酷な作業でしたが、メンバーたちは「少しでも復興の一助

となれば」という思いで頑張りました。

23日には、大分教区の大分、別府両家庭教会のメンバー8人が、被害が大きかった同県日田市内で建物内の泥の撤去作業などを行いました。

【九州北部豪雨被害に対する支援金募集】

九州北部豪雨の被災地を支援するため、家庭連合でも以下の内容で支援金の募集を開始しました。支援金は主に、被災した教会員への支援や支援物資の購入などに使われます。

募集期間：7月21日～8月31日

送金口座：ゆうちょ銀行

記号：10140 番号：76685481

名義：宗教法人世界平和統一家庭連合

※ゆうちょ銀行以外の銀行から振込みの場合は、以下のようになります。

店名：〇一八（ゼロイチハチ）（普）7668548

福岡の「書写夏まつり」に1600人

各地で書写イベント開催

7月23日、福岡市内の会場で第52回書写奉納式「書写 夏まつり in fukuoka」が開催され、新規のゲスト200人を含む約1600人が参加しました。

オープニングは、統一武道の熱い演舞が行われ、黒帯の子供たちが日ごろの稽古の成果を披露しました。下川善文福岡教区長による主催者挨拶、模範家庭の紹介に続き、メインスピーカーの高島幸司・第11地区巡回師が、米国やミャンマーでの海外宣教や日本における二世圏教育の証しなどを様々な写真や映像を用いて紹介しながら、家庭連合の理念と真の父母様の素晴らしさを訴えました。

第2部は、九州鮮鶴合唱団とシンガーソングライターによる歌を通して、会場は大いに盛り上がり、最後には豪華な景品が当たる大抽選会が行われました。



【各地で開かれた書写イベント】

① 満員となった会場 ② 講演を行う高島幸司巡回師
③ 統一武道の演舞 ④ 九州鮮鶴合唱団

日付	主催	イベント名	参加人数
7月 11日	西東京教区	第51回 自叙伝書写感謝の集い	900人
12日	愛媛教区松山家庭教会	第17回 自叙伝 心の書写会	300人
16日	奈良教区奈良家庭教会	第77回 心の書写奉納式	100人
16日	東埼玉教区	第5回 書写奉納伝授式	300人
18日	南福岡教区久留米家庭教会	書写夏祭り	400人
20日	東東京教区江戸川家庭教会	自叙伝書写感謝の集い	600人
23日	東東京教区葛西家庭教会	自叙伝書写礼拝	220人

群馬・高崎家庭教会で「孝情まつり」



書写奉納式の参加者

7月16、17日の2日間、群馬教区高崎家庭教会で「孝情まつり」が開催され、新規のゲスト241人を含め、全体で950人が参加しました。1日目はオープン礼拝と文化公演、2日目は書写奉納式を2ラウンド実施。屋外の駐車場には屋台や特別企画物を準備する一方、キッズルームも充実させ、教会内外の家族がたくさん参加できるよう工夫しました。

オープン礼拝では、^{かちまさゆき}可知雅之巡回師が説教を行い、笑いあり感動ありの内容に参加者たちは大いに復興。午後の文化公演では、教会内外のエンターテイナーが「まつり」の雰囲気を盛り上げました。

2日目の書写奉納式では、浅川勇男先生が講演。感動的なメッセージに多くのゲストが涙を流していました。

群馬教区は、今年3月に^{ナムギョンソン}南冥誠教区長を迎え、真

のお母様をお迎えするための1万名基盤づくりを本格的にスタート。10月には教区3000名大会の実現を目指し、2018年に5000名大会、2019年に1万名大会を開催する計画です。



オープン礼拝で説教を行う
可知雅之巡回師



文化公演でダンスを
披露する婦人たち

栃木教区でファミリーフェスティバル開催

7月16日、栃木県内の会場で「第15回ファミリーフェスティバル in 栃木2017」が開催され、約170人の新規ゲストや20人を超える地元議員を含むおよそ1200人が参加しました。

勅使河原秀行・総合企画局副局長は基調講演で、家庭の大切さを強調。第2部ではエンターテインメントや抽選会が行われ、大盛況の中で閉幕しました。



講演を行う勅使河原秀行副局長



講演を聴く参加者

和歌山、西大阪教区で既成祝福式

7月16日、和歌山教区の3家庭教会合同で「2017天地人真の父母孝情天宙既成祝福式」が挙行され、会場となった和歌山家庭教会には、既成2組、独身2組のほか、祝賀客や聖歌隊など合わせて100人余りが参列しました。祝賀会ではカラオケ・コーラスで盛り上がりしました。



聖水式のようなす
(和歌山家庭教会)

7月23日、西大阪教区吹田家庭教会で、同教区の「既成祝福式」が行われ、既成夫婦7家庭、独身3家庭の計10家庭が参加しました。祝福式は、終始和やかな雰囲気で行われ、温かく感動的な式典となりました。



西大阪教区の
祝福式の参加者

西広島・中央家庭教会がファミリー礼拝

7月23日、広島市内の会場で、西広島教区中央家庭教会のファミリー礼拝が開催され、4世代家庭と食口200人が集まりました。

聖歌隊による讃美で会場全体が神霊に包まれた後、藤川憲治教会長が「私は今、正しく生きているか」と題して説教を行い、参加者はとても復興しました。

20年ぶりに礼拝に参加した食口も非常に感動し、「これからも是非、礼拝に参加したい」と語っていました。



説教を行う藤川憲治教会長



聖歌隊による讃美

福岡・糸島で「ファミリー地引網&海浜清掃」

7月22日、APTF南福岡協議会は、福岡県糸島市の海岸で毎年恒例の「ファミリー地引網&海浜清掃」を行い、子供から大人まで60人が参加。美しい自然の中で楽しい夏の日を過ごしました。

参加者は、最初に海岸の清掃活動を実施。その後は、海水浴やバーベキュー、地引網、スイカ割りを行いました。

参加者全員で行った地引網では、大小さまざまな魚を収穫。大人も子供のようにしゃいでいました。



楽しい時間を過ごした
参加者たち



力を合わせて網を引いた